

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和3年6月28日	部 名	衛生化学部	
調査研究課題		宮崎県に流通する食品中のカビ毒含有量調査			
調 査	主任研究者	木下和昭		研究区分 (小分類)	<input checked="" type="checkbox"/> 県単研究 <input type="checkbox"/> 公募研究 <input type="checkbox"/> 共同研究 <input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 基礎研究
	その他の研究者	富山裕規、恒益知宏 松川浩子、落合克紀			
研 究	調査研究期間	令和4年度 ～ 令和6年度 (3か年間)			
体 制	調査研究費	予算項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		国 費	千円	千円	千円
		県 費	600千円	600千円	600千円
		そ の 他	千円	千円	千円
	合 計	600千円	600千円	600千円	
調査研究の目的		<p>カビによる穀類やナッツ類の汚染により産生されるカビ毒は、長期摂取により発がん、臓器障害や免疫機能障害等の慢性毒性を示すため、食品衛生上重要な問題とされている。さらに、近年、カビ毒に糖などが結合したカビ毒修飾体が潜在ハザードとして注目されるようになった。修飾体は性状が元のカビ毒とは異なるため従来の分析法では検出されないが、腸内細菌等により加水分解されて元のカビ毒を遊離するものがある。そのため、修飾体の見逃しはカビ毒の過小評価になり得ることから、含有実態や毒性等の知見収集が世界的に進められている。国内では麦類を中心に調査が進められているが、その他の食品に関する含有実態は情報が不足している。</p> <p>そこで、本研究では修飾体を含むカビ毒の一斉分析法を確立し、県内流通食品中のカビ毒の含有実態及び曝露リスクに関する知見を集めることを目的とする。</p>			
調 査 研 究 内 容	研究の実施計画	<p>各カビ毒の分析条件の確認と種々の試料に対する抽出・精製法を検討する。添加回収試験による妥当性評価を実施し、カビ毒一斉分析法を確立した後、県内流通食品中のカビ毒含有量を調査する。</p> <p>調査対象試料はカビ毒の検出が想定される麦類製品、トウモロコシ製品、ナッツ類製品、香辛料、茶、ビールなどを予定している。</p>			
	技術手法	LC/MS/MSによる分析			
	年次計画	<p>【令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析条件の確認 試料の種類ごとの抽出・精製法の検討、試験の実施 <p>【令和5年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析法の妥当性評価の実施 <p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内流通食品中のカビ毒含有量の調査、曝露リスクの評価 			
調査研究の効果等 (行政効果・県民ニーズへの波及効果等)		<p>① カビ毒の組合せによっては毒性が増す可能性も指摘されているため、修飾体を含む一斉分析法の確立は、曝露量評価だけでなく毒性リスク評価の面においても有用である。</p> <p>② 含有量調査の結果によっては、カビ毒のリスク評価見直しのための知見収集に貢献することができる。</p> <p>③ 検査能力の拡充により、県民からの相談や検査依頼への対応が可能となり、公衆衛生の向上につながる。</p>			
備 考					